

番傘川柳本社 9月句会

日時 令和6年9月8日(日)
 会場 たかつガーデン
 出席 稲葉 良岩 65名
 出 席 柴田 桂子
 司 会 中 岡 千代美
 呼名復唱……………柴田 桂子
 記名清記……………中 岡 千代美

北陸総局からの推薦で石川県から選者として赤池加久さんをお迎えしたの句会でした。
 出席いただける方には本社句会の選者もして頂くとう初めての試みですが、今後も続けますのでよろしくお願ひします。
 加久さんのお住まいは石川県ですが地震の被害も無く通常の生活が送れているそうです。でも地方紙の

「北国新聞」では今も毎日一面に被災状況が掲載され、それによるとまだまだ復興は遅れているとお話され、私達も胸を痛めつつお聞きしました。暦の上では秋になったとは言え十月過ぎまで夏の暑さがまだまだ続くそうです。気を抜かず熱中症対策に心配りし元気に過ごして下さいと主幹からのお話もありました。

席 題 ロボット 奥野 健一郎 選

その動作人間に似て怖くなり
 ロボットもいつかは人を選ぶかも
 ロボットがロボット作るから困る
 ロボットが代理戦争する未来
 監督のロボット生真面目なコーチ
 月見酒ロボット一人しらけてる
 ロボットに人が仕える近未来
 ロボットにも利き手があるの右左
 老いの足二足歩行のロボみたい
 核のゴミ処分ロボット救世主
 お利口なロボット階段と知っている
 レストラン給仕ロボットそつもなく
 ロボットに人の情けはわかるまい

あなたのロボットじゃないと妻反旗
 ロボットに遊んでもらい良い老後
 ロボットも休み下さい日曜日
 不安ですロボット兵の近未来
 アトムがいて未来に夢があったころ
 兵庫知事アンドロイドに見えてきた
 人知れずロボット美女に恋をする
 ロボット犬心あるのか話しかけ
 人手不足に作業ロボット出番です
 ロボくんは一人暮らしの良い伴侶
 ロボットにお茶の作法を教えます
 あのロボット人に介助を受けている
 受付のロボット嬢に惚れました
 ロボットに人間の罪裁かれる
 ロボットが欠伸している町工場

田中美弥子
 田中 薫
 林 ともこ
 柴田 園江
 山本さくら
 辻 肇
 油谷 克己
 湯澤 孝扇
 森 廣子
 井倉 和子
 銭谷まさひろ
 小上 元武
 柴田 園江
 田中 新一
 吉富ひろし
 家事はロボ育児専念いたします
 ノックして入れ失礼だぞルンバ
 ロボットとは言わぬがそんな扱いだ
 妻の言うまままるでロボット婿養子
 あなたと隣どちらロボットなのですか
 ロボットのご意見通り指示通り
 無愛想な人間よりも情が湧く
 ロボットに涙の訳はわかるまい
 ロボットが仕切る手と足頭まで
 ロボットの犬を買ったがあいそなし
 ロボットも匠の技にかなわない
 救世主鉄腕アトム待ち焦がれ
 柴田 桂子
 稲葉 良岩
 田中 螢柳
 倉 周三
 井本 健治
 中岡千代美
 井倉 和子
 小川智世子
 大西 将文
 下岡 昌美
 北川ヤギエ
 奥野健一郎
 宿 題 虫 湯澤 孝扇 選
 益虫になろう明日からボランティア 銭谷まさひろ

一寸の虫も世紀の恋をする

大西 將文

退屈の虫を宥める回復期

松本 柎子

決着をつける玉虫色の案

川端 六点

苦虫がじわりと効いてくる孤独

柴田 桂子

カシミヤが好きと贅沢な虫だ

中岡千代美

物価高年金だけで虫の息

小上 元武

虫けらと言われ闘志に火が付いた

倉 周三

本屋さん消えて寂しい本の虫

岩田 明子

ヒーローは強いクワガタ持つてる子

高橋 裕樹

みの虫と会話が弾むわび住まい

稲葉 良岩

夢に見る虫の知らせか眠られず

成山きよし

昆虫館蝶も私も羽化します

西 美和子

虫かて見初めるピチピチ若い花

小山恵美子

ミツバチはきつとハリスに入れるはず

森 茂俊

朝風呂をチラと覗きに来たトンボ

山本さくら

虫眼鏡で見てもわからぬカタカナ語

西上 遊二

虫の音も口説き文句の中に入れ

三好 聖水

虫好かぬ上司不運と諦める

油谷 克己

左遷地の心を癒す虫の声

楠本 晃朗

ふるさとの夜をもてなすくつわむし

楠本 晃朗

赤とんぼ群れて想いは過疎の村

田中 薫

虫供養みのおに床し行事あり

田中 螢柳

息子弱虫されど一番やさしい子

原田 正士

弱虫が強くなってる母子手帳

田中美弥子

泣き虫の子供いたわる盲導犬

山田 昭市

いま鳴いたチチロわたしに似て音痴

川端 六点

笑い虫貴方が連れていったまま

柴田 桂子

みの虫のように生きたしあるがまま

片岡 加代

虫好かぬ人が気になりだして恋

小川賀世子

泣き虫と苦虫で住むひとつ屋根

桑原すゞ代

偏差値と点取り虫は仲が良い

柴田 園江

長びいた会議終わらず腹の虫

白井 笙子

夜も眠らぬ言い負けた腹の虫

田中美弥子

堪忍だけで収まらぬ腹の虫

鈴木 栄子

たっぶりの時間食べてる本の虫

田中 新一

電車のなか隅に一匹本の虫

山本さくら

時々はおのれの心虫干しに

田中 利一

秋の虫女独りを秋にする

森中恵美子

ワイン手に月と虫の音酔う今宵

湯澤 孝扇

宿題 あれこれ

下林 正夫 選

あれこれと世話焼きすぎる恋女房

油谷 克己

家族葬連絡先で採めている

吉富ひろし

あれこれと悩んだ結果元の位置

鈴木 栄子

究極はあうんの二人あれにこれ

柴田 桂子

あれこれと指図ばかりの上目線

湯澤 孝扇

あれこれと言つてナンボの評論家

大西 將文

やめなさいあれこれ聞いて探るのは

湯澤 孝扇

あれこれを相談してる預金帳

田中 新一

リーダーのつもりかあれこれ指図する

油谷 克己

あれこれと舞台迷わず演じ切る

本田 智彦

任せると頼みあれこれ指図する

吉富ひろし

あれこれと迷う婚活身はひとつ

西上 遊二

人はみな擦った揉んだをやり過ごす

阪本 秀子

肩と腰足も痛い良き老後

山本さくら

あれこれと手を出し全て未完成

三好 聖水

振の向けば過去がほほえむあれやこれ

小川賀世子

あれこれと船頭多く成果なし

野口 龍

長生きも皆にあれこれ気をつかう

北川ヤギエ

あれこれと振り回されて独り住む

田中 新一

したいことあれこれあってまだ逝けぬ

倉 周三

あれこれに喜怒哀楽がてんこもり

阪本 秀子

謝らぬ人の言い訳まだ続く

稲葉 良岩

あれこれため息ついて知恵絞る

辻 肇

助手席であれこれ妻の口達者

林 ともこ

あれこれを捨てる記憶のあるうちに

桑原すゞ代

定めならあれこれ言わず受け止める

柴田 桂子

あれこれと不思議に思う八十路越え

山田 昭市

屋下がりうわさの好きなコヒーと

松本 柎子

あれこれとタッチパネルが指図する

辻 肇

バーゲンへ要らない物を買に行く

山本さくら

思い出が詰まったものは捨てられぬ

岩田 明子

木魚叩いてあれこれ文句言ってます

荻野 浩子

あれこれと訳の分からぬ電子音

井本 健治

子育てに指図はやめてお母さま

小寺八重子

あれこれと口実がす終電車

奥野健一郎

結婚にあれこれまよいまだ独り

小上 元武

気にかかるあれこれあつてまだ死ぬ

柴田 園江

あれこれを知っているのはエクボだけ

桑原すゞ代

頰杖と見果てぬ夢を追っている

松本 柎子

何やかや騒いでみても元の鞘

下林 正夫

宿題 半 端

荻野 浩子 選

ひからびて死にそう半端ない暑さ

井本 健治

端が旨い太巻き寿司もカステラも

山本さくら

何で13個で注文してんねんや

樋浦 桜竜

中途半端な善意流れ矢に当たる

柴田 桂子

対応の中途半端が生む悲劇

八木 幸彦

定年を半端な位置で終えました

西 美和子

ほんまもんに中途半端は連じない

八木 幸彦

返事してよいいの悪いのどっちなの

三好 聖水

半端ではないな老後の二千万

北川ヤギエ

居酒屋は五時中途半端をもて余す

白井 笙子

はつきり言ってよ好きな嫌いな

原田 正士

自宅用です不揃いがかまわない

片岡 加代

君が代を中途半端に聞くでない

森中恵美子

不揃いの素材に主婦の腕が鳴る

岩田 明子

どうせなら切り上げてくれ四捨五入

西上 遊二

夫婦別姓嫁を嫁とも呼べません

正信寺尚邦

くすぶただけで燃えずに消えた恋

川端 六六

還暦や喜寿そこらではまだ半端

大西 将文

形にはならぬ半端な趣味あまた

神田 良子

生き様が半端人生悔いている

田中 薫

何やっても中途半端ですぐ投げる

倉 周三

同棲のまんま今年もすでに秋

小川賀世子

半端ない努力重ねた金メダル

田中 新一

B品で充分口に入れば変わらない

島田 握夢

半端ない努力が光るパラ五輪

田中 薫

イケ面で小心者でチョイ悪で

桑原すゞ代

こんな端切れと亡母を偲んで感無量

島田 握夢

宿題 積 む

赤池 加久 選

僕のシナリオ中途半端で終われない

林 ともこ

半端な子ひとりもないいな宝

鈴木 栄子

半端ないです百歳の笑い皺

荻野 浩子

ひとつ嘘積み上げるたび身が縮む

亀山 常男

経験値活かして伸びた棒グラフ

阪本 秀子

ポイントももう充分と閻魔から

正信寺尚邦

喜怒哀楽積み上げてきたダイヤ婚

田中美弥子

自転車に夕陽を積んだ帰り道

山本さくら

いただいた山積みの愛子にも分け

湯澤 孝扇

裏金を積み上げどうする金庫番

油谷 克己

米売り場カラッポ裏に積んである

荻野 浩子

強かに生きた証のメダル積む

松本 柎子

積み上がるきれいなままの入門書

稲葉 良岩

ハンガーを積んで都会に棲むカラス

谷口 東風

ただ一つの道へ小さな積み重ね

小山恵美子

積み上げた積み木を崩す反抗期

林 ともこ

伝統へ温故知新の積み重ね

片岡 加代

抜き足差し足積読が揺れている

中岡千代美

下積みが長くいまだに切られ役

川端 六六

死ぬまでに読み切れません積んだ本

楠本 晃朗

登頂の記念にケルン積んでみる

西上 遊二

積み上げた不満政治にも申す

岩田 明子

受け答えキャラを積んだぞつの無き
ケルン積むあつけらかんと空の青
老いの脳必死で土囊積んでいる
尖る子の積み木はすぐに崩れ去る
善を積む私がヒトであるために
喜怒哀楽積んで私の顔になる
札束を積まれてからの下降線
思い出を積み木の部屋に置いて来た
生きている証し机上が片付かぬ
積んだ徳荷崩れおこす嘘ひとつ
嘘いっぱい紙飛行機に積みました
投げられた礫しっかり胸に積む
被災地の瓦礫の山にもはや秋
恥を積む人間らしくあるために
積んできた技デジタルが馬鹿にする
人間を磨くしくじり積んでいる
耐えるたびに心が澱が積みあがる
人間のよろさ見詰めている積み木
経験を積むと真偽が見えてくる
おもちゃ箱崩れる癖のある積み木
瓦礫でも積めば祈りになるケルン

奥野健一郎
片岡 加代
井本 健治
阪本 秀子
大塚のぶよし
林 ともこ
荻野 浩子
野口 龍
岩田 明子
高橋 裕樹
銭谷まさひろ
辻 肇
田中 薫
西 美和子
谷口 東風
柴田 園江
西 美和子
田中 新一
三好 聖水
川端 六点
赤池 加久

宿題 みつともない片岡 加代 選

パパ活がばれて政治家辞めました 山本さくら

突然の客には部屋を見せられぬ
ただの物なんでももらいゴミ屋敷
多様な世みつともないもそれぞれで
孫の目にステテコの父恥ずかしい
お下がりでもみつともないが誇らしい
気付いたらポロポロ剥けていたウロコ
白く日焼けしたみつともないカラス
割り勘の端数をめぐりもめている
みつともないこともしました食べるため
にんげんをみつともないと秋の天
大上段の刀下ろせぬ知事の顔
未曾有を読めぬ政治家風を切る
政治家の往生際の悪いこと
いつまでもバックが下手な運転手
負けて尚たればならべ負け惜しみ
アイスクリーム蓋の裏まで舐めている
レトルトでもう半年も生きている
歩きスマホで転んだネコに見られてた
潔く非を認めずに自己弁護
失敗をすぐに他人のせいにする
泣くなんて男の子でしょ母の声
ええ歳して親のせいだとまだ言うか
言い訳をするみつともない敗者
老いたのか二合そこで酔いつぶれ

穂山 常男
楠本 晃朗
小川賀世子
湯澤 孝扇
沼田 捷二
西 美和子
小山恵美子
田中 薫
田中 螢柳
森中恵美子
田中 新一
成山きよし
松本 柁子
八木 幸彦
山田 昭市
西上 遊二
桑原すゞ代
荻野 浩子
阪本 秀子
岩田 明子
神田 良子
山本さくら
八木 幸彦
大西 将文

龍宮に居たいと太郎ぐずってる
負の連鎖しがみついている蜘蛛の糸
丸文字へ永字八法教えねば
虚しさが響く空き缶蹴っている
正装でお越し下さい言ったのに
みつともないできちゃった婚普通です
みつともないと子どもが親に咬いた
言い訳の裏で命が散っている
酔わないと本音で話せないそうな
お洒落よりバジヤマが似合う男です
兄弟でみつともないと遺産分け
なんぼ好きでも駅のホームのディレキス
悪い酒友達みんな居なくなる
振り向きはしない私のサヨウナラ
全身を高級ブランドで埋め尽くす
何と言われてもマスクは外せない
無様でも次に繋がる負けっぷり
子は親のみつともないも見て育つ
ビンタされヒールで踏まれ逃げられる
楽屋裏とともじゃないが見せられぬ

穂山 常男
柴田 桂子
正信寺尚邦
北川ヤギエ
野口 龍
中井 佳子
本田 智彦
銭谷まさひろ
稲葉 良岩
高橋 裕樹
沼田 捷二
廣子
森 聖水
三好 聖水
中岡千代美
成山きよし
島田 握夢
辻 肇
田中 利一
高橋 裕樹
片岡 加代

